

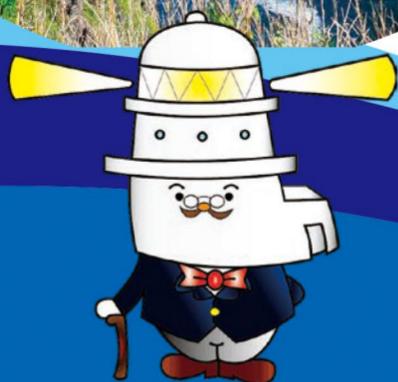


南伊豆町



総合防災マップ

保存版



まちを守る。家族を守る。
光と水と緑に輝く南伊豆町

ご挨拶



南伊豆町長
岡部 克仁

町民の皆さまには、日頃より町政運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月11日の「東日本大震災」は、東北地方に甚大な被害をもたらし、多くの貴重な教訓をもたらしました。静岡県では、今後も南海トラフ巨大地震などの大規模災害がいつ発生してもおかしくない状況にあると言われております。

このような災害が、いつ起きても対処できるように私たちは、日ごろからしっかりとした防災意識をもち、対策を講じておく必要があります。

南伊豆町でも、皆様の安全を守るために災害に強いまちづくりを進めているところですが、安全なまちづくりには、行政機関の対策だけでは十分ではありません。

自助、共助のスローガンのもと一人ひとりが、防災の重要性を認識し、積極的に防災活動に参加していただくことが不可欠です。

この防災ガイドブックは、津波、土砂災害、洪水などの様々な災害に対し、事前に備えることで、日ごろの心構えや予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるよう、イラストなどでわかりやすく説明しております。

ご家庭の目につくところに常備され、災害に備えるための資料として参考にさせていただければ幸いです。

目次

町内で発生した大きな災害	2
避難情報の種類	2
南伊豆町メール配信サービス	2
南海トラフを震源とする地震について	3
地震対策について	3
応急手当	4
南伊豆町津波避難計画	5
津波避難心得	5
津波・高潮・波浪警報・注意報	6
津波浸水想定図(南伊豆町全域図)	7・8
風水害対策について	9
大雨による災害の種類	10
洪水ハザード情報について	11
自主防災組織	12
ハザードマップ(詳細図)	13~36
東京電力パワーグリッドからのお願い	37
避難時の心得	38
非常時持ち出し品リスト	38
わが家の「防災・緊急情報」メモ	39

町内で発生した大きな災害

■過去の災害【伊豆半島沖地震】

1974年(昭和49年)5月9日午前8時33分ごろ、伊豆半島南部の南伊豆町を中心に局所的に被害を伴った地震が発生した。石廊崎沖を震源とし、震源の深さは10キロメートル、地震の規模を示すマグニチュードは6.9であった。

被害は伊豆半島南部地域に集中し、死者30名、負傷者102名、家屋の全壊134棟、半壊240棟などのほか、山がけ崩れ等も発生した。

南伊豆町中木では、地震動により裏山が崩壊し、27名が土砂の下敷きとなって死亡したほか、負傷者8名、家屋の全壊30棟、全焼5棟、半壊3棟、一部破損19棟と壊滅的な被害を受けた。また、入間、石廊崎、その他の地区でも塀の倒壊による死者3名等の被害を受け、南伊豆町過去最大の被害を受けた。

避難情報の種類

区分	発令時の状況	住民に求める行動
避難準備・高齢者等 避難開始	●災害発生の可能性が高まった状況	●避難準備を開始 災害時要配慮者は避難を開始 ●避難支援者は要配慮者の避難支援を開始
避難勧告	●災害発生の可能性が明らかに高まった状況	●避難所や避難場所への避難を開始
避難指示 (緊急)	●災害発生の危険性が非常に高いと判断される状況 ●災害が発生した状況	●避難行動をただちに完了 ●安全に避難できない場合は命を守る最低限の行動をとる

南伊豆町メール配信サービス



南伊豆町では、町民の皆様に向けての防災情報等の生活安全に関するメールの配信を行っております。
配信希望の方は、左記のQRコードからサイトにアクセスして登録するか、直接 t-minamiizu@sg-m.jp に空メールを送信してください。

南海トラフを震源とする地震について

「東海地域では巨大地震がいつ起きても不思議ではない」

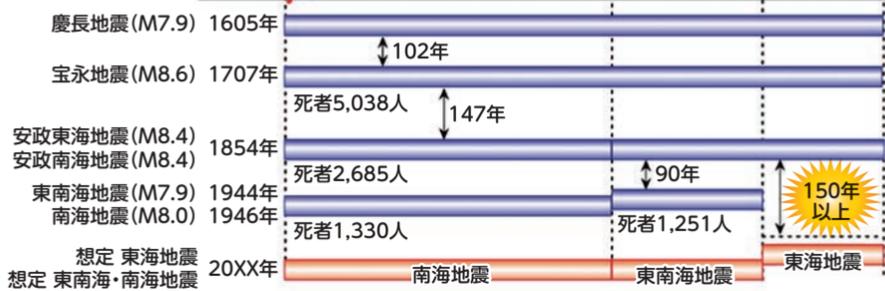
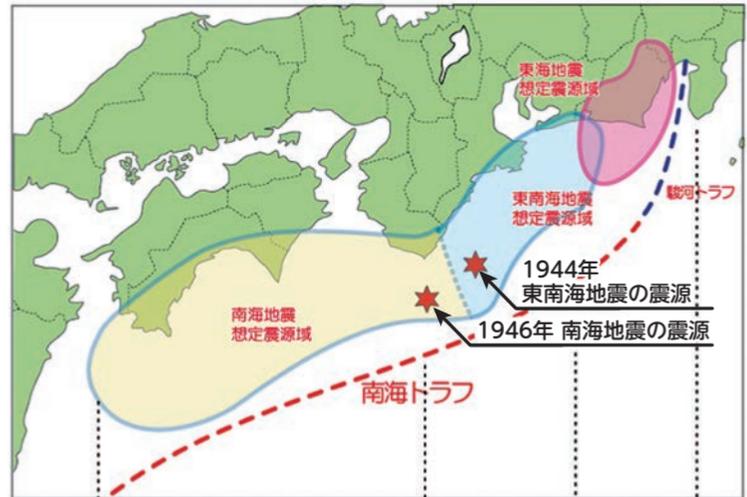
「東海・東南海・南海」3連動「南海トラフ巨大地震」の可能性

東海地震とは

東海地震は、駿河湾から静岡県の内陸部を震源域とするマグニチュード8クラスの巨大地震で、その発生の切迫性が指摘されています。

その根拠として、過去にこの地域で発生した大地震の歴史が挙げられます。駿河湾内にある駿河トラフから四国沖にある南海トラフにかけてのプレート境界では、過去100年から150年おきに岩盤がずれてマグニチュード8クラスの巨大地震が繰り返し起きていたことがわかっています。しかし、前回の地震（東南海地震[1944年、マグニチュード7.9]、南海地震[1946年、マグニチュード8.0]）の際には南海トラフ沿いの岩盤だけがずれて、駿河トラフ沿いの岩盤だけがずれずに残ってしまいました。そのため、駿河トラフ周辺の部分の岩盤は150年以上もずれていないことになり、「東海地震はいつ起こってもおかしくない」と言われているのです。

今後、東海地震が相当期間発生しなかった場合、東海地震と東南海、南海地震が連動して発生する南海トラフ巨大地震の可能性も懸念されます。西日本を中心に、巨大な津波や強い揺れにより極めて甚大な被害が生じる、国難とも言える巨大災害になるものと想定されます。



地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震に備えて事前準備をしよう!

- 家具の固定・非常持ち出し品の準備
迅速な避難のため家具の固定や非常持ち出し品の用意をしましょう。

とにかく自分の身を守ろう!

- 地震だ!まず身の安全
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

しっかり火の始末で、火災防止!

- 大揺れがおさまった
台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

わが家の安全の確認、確保!

- 火の始末のあと
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

隣近所の安否確認、助け合い!

- 外に出たあと
家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

2、3日は自分でしのぐ!

- 避難後、数日間
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。



応急手当

心臓が止まってしまうような重大な事故は、いつ、どこで、何が原因でおこるか分かりません。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた人が心肺蘇生などを行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることがわかっています。日本では、119番通報があつてから救急車が現場に駆けつけるまでに平均して8分ほどかかります。事故などにあった人が心肺停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。

心肺蘇生法

事故などにより傷病者が心肺停止状態になった場合、現場に居合わせた人は救急車が来るまでに、速やかに心肺蘇生などを行う必要があります。

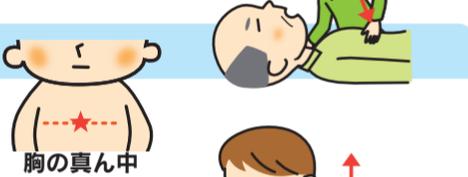
1 意識確認

- 意識がなければ、助けを呼び、119番通報とAEDを要請する。



2 呼吸確認

- 胸と腹部の動きを見ます。動いていなければ、心停止と判断します。



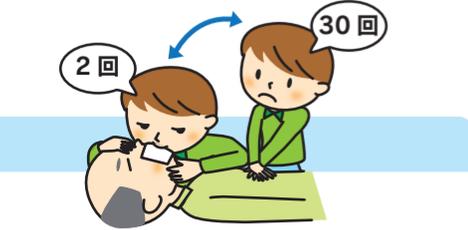
3 胸骨圧迫

- 胸の真ん中に手を置く。
- 肘を伸ばし、胸が少なくとも5cmしずむように圧迫する。



4 人工呼吸 (※省略可能)

- 気道を確認したまま患者の鼻をつまみ、患者の口をおおい、1秒かけて息を吹き込む。
- 2回行う。
- 自信がない、抵抗がある場合は省略してよい。



5 心肺蘇生法

- 胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を、到着した救急隊と交代するまで繰り返す。
- 人工呼吸を省略した場合は胸骨圧迫のみ繰り返す。

AEDの使い方

心肺蘇生法の実施者は心肺蘇生法を継続し、他の人がAEDを操作しましょう。AEDは音声がついているので音声にしたがって操作しましょう!!

1 電源ON

- ※ボックスを開けると自動で電源がONになる機種もある。



2 パット装着

- 心臓を挟むようにパットを貼る。
- ※パットに図が描いてあります。※下記使用上の注意参照



3 心電図解析

- AEDが心電図を解析する。
- パットが装着されたら、自動で心電図を解析するので、周りの人に「離れて!」と指示を出す。
- ショックが必要かどうか注意して聞く。



4 電気ショック

- ショックが必要なとき再度「離れて」と指示し、周囲の安全を確認後、ショックボタンを押す。
- ショックが不要なとき⑤心肺蘇生法に進む。



5 心肺蘇生法再開



みんなで
チェック

AEDとは???

自動体外式除細動器のこと。
ひとこと言えば、初めての人
でもできる電気ショックの機器。



使用上の
注意

- 体が濡れていたらタオルで水分を拭きとってから使用する。
- 胸部にペースメーカーや貼り薬がある場合はその部分を避けてパットを貼る。
- 小さな子供(乳児も含む)には小児用パットを使用しますが、ない場合は成人用を使用してもよい。